

# デザイン思考×小学生×教育 アタマをカタチにプロジェクト

2023年10月  
一橋大学商学部 データ・デザイン・プログラム(DDP)  
愛川 優、マクナーニ 咲来、辻川 菖太郎

## プロジェクト概要

このプロジェクトは、小学生に対する新たな教育法を研究することを目的とする。具体的方法としては、小学生を対象にして、デザイン思考について授業をする。その後、新しい文房具を開発する。授業において「着想」「発案」「実現」を教え、その実現の方法として全員にプロトタイプを作ってもらい、より良い案を生徒同士のディスカッションで決め、企業と協力して試作品を製作する。

## 研究目標(Output)

- ・デザイン思考の学童期の子供への教育法の考案
- ・上記教育法から、一般的な子供たちが主体的に考え学ぶ教育法の確立
- ・小学生からの案を企業と協力して試作品の製作

## 目的

私たちの目的  
子供たちが主体的に考え学ぶ教育法を研究すること

子供たちの目的  
大人と一緒に自分たちの案で新しい文房具を生み出すこと

## 具体的な教育カリキュラム

1. デザイン思考について授業をする
2. 学んだ思考の枠組みを使って、テーマ決めて、作る製品のアイデア出し
3. 全員でプロトタイプ作る
4. プレゼン大会やディスカッションで、製品化する案を生徒間で決めてもらう
5. 企業の大人に対して、自分の案のプレゼンをする

## スケジュール

- ・具体的なカリキュラムを詰める(2023年10月-2023年12月)
- ・国立市にカリキュラム導入のお願いをする(2023年10月-2023年11月)
- ・協力してくれる企業を見つける(2023年10月-2024年3月)
- ・提携企業(1社)・小学校(2校)の決定(2023年10月-2024年3月)
- ・長期カリキュラムを1校で実施(2023年10月-2024年9月)

## 実現可能性

手順としては 教育委員会 → 公聴会 → 小学校  
議員さん経由で教育委員会の方、及び国立市子ども家庭部(児童館・学童保育所の運営、放課後子ども教室を行う部署)の方と23/11/6にミーティング予定。

## チームメンバー

一橋大学商学部DDP(データ・デザイン・プログラム)所属

## DDPとは？

[一橋大学 商学部・大学院経営管理研究所 データ・デザイン研究センター - \(hddp.jp\)](http://hddp.jp)

データ・デザイン・プログラム(DDP)は、ビジネスとテクノロジーを結びつけて新しいタイプの経営者を育てるプログラム。このプログラムは、情報(データ)とデザインを活用してイノベーションを推進する人材を育てることを目的としている。

DDPは、コンピュータ・サイエンス(テクノロジー)とデザイン思考(デザインの考え方)を組み合わせたカリキュラムが特徴である。具体的には、デザインやマーケティングの授業、情報学やプログラミング(AI、IoT、Big Dataなど)の授業、そして実際のビジネス課題に取り組むワークショップが含まれる。

## 愛川 優

わたしは、アルバイトでプログラミングスクールの教師をしている。その中で、わたしの授業中に良く笑う、活発に授業参加してくれる子が、「学校の勉強はどれもつまらない」「好きな科目なんてない」と言っていたことが教育に興味をもったきっかけだ。その子のいつもの授業中の姿から、教育のやり方をもっと自由に、面白くすれば、塾の勉強も、学校の勉強も、楽しくすることができるのではないかと考えている。

また、社会を変えるためには、政治よりも未来の世代を変えることが一番手っ取り早いと思っているので、その点で教育に尽力することは価値が高いと感じている。

## マクナーニ 咲来

私が通っていた学校では、中学生1年生からデザイン思考の授業があり、中3で企業との商品開発、高校生では学校内での起業を経験するなど、通常学校の科目にはない学びを沢山得た。偏差値に囚われない、アイデア発想・プレゼンや課題の深掘りなどの力をこれらの経験から身につけることができ、自分の強みになったと感じている。このような経験をより多くの生徒に届けたい。

## 辻川 菖太郎

自分の小学校生活を振り返ると今よりも斬新なアイデアが出やすかったという記憶がある。また、バイトで小学生に向けて授業をしているとある事象に対して自分の意見を記述する問題を苦手とする生徒が非常に多い。自分の意見を持ってほしい、気軽にその意見を発表してほしいという思いがあっても実際にそれを出せる子が少ないのはなぜだろうか。おそらく生徒の根底には否定されるのが怖かったり自分の意見の点数、優劣を過度に気にするところがあり、それが意見の少なさにつながるのではないかと考えた。したがって今求められるのは成績や出来栄を求めずのびのび意見交換ができる場であり、それに基づいた授業をしたいという思いがある。